

一般財団法人新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

施設総合管理業務委託 環境整備業務共通仕様書

1 業務委託の基本的な考え方

患者満足度の高い療養環境の提供及び病院スタッフとともに医療の質の向上を図ること。

2 業務項目

- (1) 院内清掃等
- (2) 看護環境整備

3 環境整備業務責任者

(1) 選任要件

次の要件を満たす者を環境整備業務責任者として選任し、常駐させること。

また、責任者の交代については、事前に当院と協議すること。選任された責任者について、当院が適任でないと認めた場合には、当院と受託者とで協議の上、速やかに別の責任者を配置すること。

なお、責任者は、他業務との兼任は認めない。

ア 病院における清掃業務又は看護環境整備業務について、3年以上の実務経験を有する者

イ 本業務を円滑に遂行するために統括的な責任及び必要な知識を有する者

(2) 業務内容

ア 業務責任者は、院内他を見回り環境の状態を確認し、また定期清掃等に立ち会うなど、従事者を指揮監督し、不適切な履行や業務の遺漏を未然に防止すること。

イ 当院や他業務との連絡調整等を行い、これを総括すること。

4 従事者

(1) 次の有資格者及び要件を満たした従事者を配置すること。

ア 病院清掃受託責任者講習を修了した者

イ 本仕様書に定める業務を遂行するために必要な人数を配置すること。

ウ 本仕様書に定める業務を遂行するために必要な知識や技術等を有する者であること。

エ 健康で業務を支障なく遂行できる者であること。

オ 身なり整い、接遇をきちんと行うことができる者であること。

カ 女性病棟（４階西病棟）をはじめとした女性患者のいる病室、女子トイレ及び女性更衣室には、女性の従事者を配置すること。

キ 身体障害者等の雇用にも配慮すること。

- （２）従事者の配置にあつては、次の資格を満たす者（以下「有資格者」という。）を配置することが好ましい。この場合、有資格者が行う次の業務については、日常的な業務として位置づけることとし、「病院、診療所等の業務委託について」（平成５年２月１５日付け厚生労働省健康政策局指導課長通知）に基づき、再委託は認めない。

ア ビルクリーニング技能士１級

常駐のビルクリーニング技能士により、院内の環境衛生維持管理を行うことを目的とする。

イ 建築物衛生管理技術者又は防除作業監督者

常駐の建築物衛生管理技術者又は防除作業監督者により、院内の衛生害虫防除業務を行うことを目的とする。

ウ 医療環境管理士

常駐の医療環境管理士により、院内感染対策の一環として全ての本業務従事者に対して感染に関する教育（月１回以上）を行うことを目的とする。

エ 建築物清掃管理評価資格者

建築物清掃管理評価資格者により、清掃業務に関する品質確保の一環として、清掃管理評価（月１回以上）を行うことを目的とする。

なお、配置する建築物清掃管理評価資格者は、非常駐でもよいが、当院の清掃業務について十分に把握できる者とし、一時的な清掃管理評価だけを行うものは不適であることに留意すること。

オ 特別管理産業廃棄物責任者講習修了者

常駐の特別管理産業廃棄物責任者講習修了者により、安全対策の一環として全ての本業務従事者に対して産業廃棄物に関する教育（年２回以上）を行うことを目的とする。

５ 業務報告等

（１）業務計画書の提出

受託者は、業務が円滑に行われるように、本仕様書に基づいた業務計画書を作成し当院に提出し、承認を得ること。

（２）勤務計画表の提出

受託者は、当院の指定した又はあらかじめ当院の承認を得た様式の勤務計画書を当該月の前月の２５日までに当院に提出すること。

(3) 業務報告書の提出

受託者は、毎日の業務終了後、業務日誌（様式は別途協議）に所定事項を記入のうえ、翌日（翌日が休日の場合は直近の平日）までに当院に提出し、内容について確認を受けること。

6 業務従事者の健康管理

業務従事者は、患者と接触する機会も多く、病原体の媒介者になるおそれがあることから、少なくとも次に定める健康管理を徹底すること。

(1) 業務従事者の感染症既往歴、予防接種歴及び抗体価の確認

(2) 年1回以上の健康診断

(3) ワクチンで予防可能な疾患は、可能な限り接種を受けさせること。

(4) 毎日作業前に健康状態のチェックを行い、健康状態が良好な者だけを作業に当たらせること。

7 研修及び業務説明

(1) 業務従事者に対して、次の研修を行うこと。

ア 受託者は、業務開始前に、本業務遂行にかかる必要な技術、院内感染防止上の知識及び患者接遇マナー等についての研修を業務従事者に対して実施すること。

(ア) 本業務遂行にかかる必要な技術（標準作業書、業務マニュアルで定める事項）

(イ) 院内感染防止の知識

(ウ) 患者接遇マナー等

(エ) 患者の秘密保持

(オ) 業務責任者については、医療法、医師法等の医療関係法令及び労働関係法規

イ 業務従事者を変更する場合、アで定める研修を受けさせた後、業務に従事させること。

ウ 特殊診察室等における業務従事者には、アで定める研修のほか、必要な研修を受けた者を従事させること。

エ このほか、業務遂行に必要と認められる研修について、当院と協議のうえ、随時実施すること。

(2) 業務従事者に対して、次の業務説明を行うこと。

ア 施設説明

イ 業務マニュアル説明

ウ 緊急時、災害時マニュアル説明

(3) その他

ア 受託者の内部において勉強会等を開催し、技術の向上や業務の質について均一化を図ること。

イ 受託者の内部において情報交流、技術交換を行い、衛生管理や患者サービスの向上に努めること。

8 緊急時対応等

(1) 緊急時連絡体制

組織体制表や緊急連絡先を当院に提出し、円滑な対応が行えるようにすること。

(2) 災害時対応

ア 災害時は、診療の速やかな復旧に貢献すること。

イ 当院の指示のもと、災害復旧活動を行うこと。

9 本業務の要求水準

受託者は、本業務の実施にあたり、以下に示す水準を満たすこと。

(1) 医療の質の向上への貢献

ア 次の点に留意して業務を行うことで、院内の衛生環境を確保し、併せて院内感染を防止し、病院の円滑な運営に貢献するものとする。

(ア) 適切な方法と計画により業務を実施し、衛生環境の向上に努めること。

(イ) 感染・汚染された環境を迅速に修復すること。

(ウ) 施設的环境が常に清潔に保たれること。

(エ) ネズミ・昆虫などの駆除・防除・殺菌消毒による細菌・微生物・ほこりの管理臭気等の管理等を行ない、施設の衛生環境・アメニティを確保すること。

(オ) 目の届きにくい所にも、手入れの行き届いた適切な清掃を行う。

イ 感染の発生源を除去するとともに、次の点に留意して感染拡大防止を徹底するものとする。

(ア) CDCのガイドラインを踏まえて、全ての体液・血液及び排泄物は感染性として取り扱うという標準予防策に則った考え方により行うこと。

(イ) 院内感染マニュアル及び当院の院内感染管理委員会等での検討内容を基本とし、病院運営に沿った院内感染防止策を構築し、実施すること。

(ウ) 業務責任者は病院環境検討改善ワーキンググループ等に参画すること。

(エ) 業務状況の確認と方法の見直しを随時行うこと。

ウ 必要と認められる書類の作成を行うこと。

エ 病院関係者及び受託者の連携により、業務の円滑な実施を図ること。

オ 業務の安定的かつ継続的な提供を行うこと。

(2) 患者サービスの質の向上への貢献

ア 次の点に留意して業務を行うことで、患者満足度の高い療養環境及び病院関係者にとっても満足度の高い労働環境を提供するものとする。

(ア) 悪臭のない環境を提供すること

(イ) 汚れのない環境を提供すること

(ウ) 業務の実施にあたっては、診療及び患者の療養環境に配慮し、適切に判断のうえ、適切な時間帯で作業に当たること。

(エ) 業務に使用する用具や消耗品等は常に充足された状態に保つこと。

(オ) 収集中の廃棄物を廊下などへ放置せず、目立たないように速やかに収集を行うこと。

イ 患者や面会者等の病院利用者や病院関係者等に不快感を与えないよう、次の点に留意して業務を行うものとする。

(ア) 適切な服装、態度、言葉遣いをもって業務を実施すること。

(イ) 患者の療養生活に応じて、適切な時間に業務を実施すること。

(ウ) 騒音・振動・悪臭等の不快感を与えないこと。

(エ) 作業終了後、使用した資機材は速やかに撤去し、安全で快適な状態に戻すこと。

(オ) 患者や面会者等の病院利用者と接するときには、当院の一員として十分な接遇や言葉づかいに留意し、患者満足度の向上に努めること。

ウ プライバシーに十分配慮し、患者の権利を尊重し患者や面会者等に接すること。

(3) 経営への貢献

ア 本業務を通じて、建築物・建築備品等の安定化（耐用年数延長等）実現に寄与するものとする。

イ 水道や電気等の使用は必要最小限に抑え、省エネルギーに努めるものとする。